

旅行計画アプリの開発

情報科学科 37022463 山本果音

1 序論

旅行計画の共有ツールとして、Google マイマップ [1] を利用するケースが多くみられる。Google マイマップは「自分の地図を作成し共有することができる」[1] というニーズに応えるために開発された背景がある。しかし、旅行のプランニング用途で使用する場合、以下のような課題が存在する。

1. 観光場所を日程ごとに分けて管理する機能が標準では備わっておらず、旅行日ごとの予定が視覚的に把握しづらい [図 1]。
2. 作成した地図をタイトルから直接検索する機能がなく、過去の旅行記録を探す際に手間がかかる。
3. 旅行に必要な持ち物を整理・確認するためのチェックリスト機能がなく、準備漏れや共有の手間が発生しやすい。

結果として、利用者は外部ツールや手作業によって不足機能を補う必要があり、利便性や効率性に課題が残る。そこで本研究では、旅行日程に沿って観光地や予定を整理し、時系列での視覚的把握を可能にするとともに、持ち物の準備状況も一元的に管理できる旅行プランニングアプリの開発を目指す。

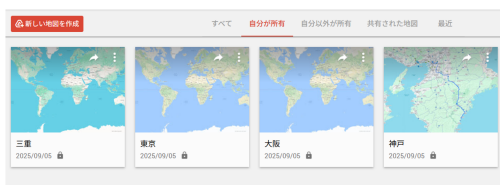


図 1 Google マイマップでスケジュールを組んだ時の画面。

2 開発手法

開発環境として Django[2] を選定した。Django の利点は以下の 2 つである。[3]

1. 迅速な開発が可能。
2. フォーム作成が容易にできる。

また開発は Python, HTML, JavaScript, CSS を使用し、UI ライブラリとしては Bootstrap を用いて開発を行った。

3 結果

今回開発した Web アプリは、以下のような動作を行う。

1. 旅行日数を入力すると、各日付に対応した日程項目が自動生成されるため、日ごとの旅行プランを簡単に立てることができる。
2. 登録された旅行期間に基づき、「完了した旅行」「旅行中」「予定の旅行」「期間未設定」のいずれに該当するかを判定し、色分けして表示することで、旅行の状態を視覚的に把握しやすくする [図 2]。
3. 旅行名や説明文に含まれるキーワードで検索できるため、目的の旅行をすばやく見つけることができる。

これにより、旅行計画の一元管理と視覚的な理解が可能となる。

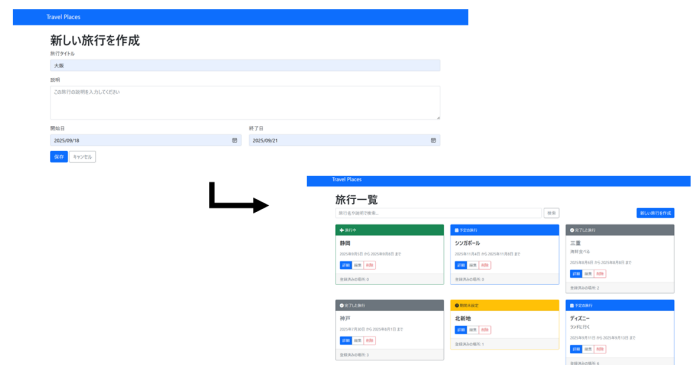


図 2 旅行日程に基づくステータス判定と色分けによる視覚的管理を行ったときの画面。

4 今後の課題

今回は、旅行日数に応じた日程項目の自動生成、旅行日程に基づく色分け表示、キーワード検索機能を開発した。今後は、更なるユーザビリティの向上のため、旅行準備の漏れを防ぐための持ち物チェックリスト機能や、日程に応じて柔軟に観光訪問順を変更できる入れ替え機能の開発を予定している。これにより、旅行計画の精度向上を図る。

参考文献

- [1] Google マイマップ, <https://www.google.co.jp/intl/ja/maps/about/mymaps/>, (2025/09/05 accessed).
- [2] Django ドキュメント, <https://docs.djangoproject.com/ja/5.1/topics/>, (2025/09/05 accessed).
- [3] Django の概要, <https://docs.djangoproject.com/ja/5.1/intro/overview/>, (2025/09/05 accessed).